

令和7年度「地域と学校の連携・協働体制構築事業」実績報告関係様式

実施自治体名	課題の類型 1	課題の類型 2	背景・現状・課題の詳細	左記課題の解決のために 令和7年度に実施する具体的な取組	左記具体的な取組のうち、令和6年度における取組の評価・分析を踏まえた取組	本事業で達成する目標 (アウトカム)	目標の達成度を測る指標	現状 値 の数	単 位	本 年 度 の 目 標 値	本 年 度 の 実 績 値
鯨川村	②学校と地域の課題	03 学校支援ボランティアの確保・育成	・昨年度までに教職員とふるさとキャリア教育「さめがわ学」のボランティアティーチャー（講師）が情報を共有する場はできているが、今後更に学校や地域のキャリア教育活動を活性化していく必要があり、一部に捉われず幅広い活動を行う。また、現在は地域コーディネーターを教育委員会が担っているため、今後地域コーディネーターの確保は課題である。	・更にふるさとキャリア教育「さめがわ学」を充実させるために、ボランティアティーチャー（講師）の人数を増やしていく。（10人→12人）また、小学校での活動だけではなく、総合的な探究の時間を確保しながら、中学校のキャリア教育活動を充実させる。（2回→10回） ・さめがわ学だけに捉われず、村の公民館活動も巻き込んで、キャリア教育を充実させる。 ・地域コーディネーターの確保（0人→2人）	地域学校協働活動は、鯨川小学校1年生から鯨川中学校3年生までの9年間、系統性のある社会に開かれた教育課程を実施し、ふるさとキャリア教育「さめがわ学」で、地域の歴史、文化、農業、自然に触れ地域の方々を講師に迎えて体験活動を行った。また、子どもの学びや成長の支援、地域コミュニティの活性化など公民館（地域）と学校が連携して子どもの活動の場を増やし、1回あたり10～25人参加して年間約50回実施した。	学校・家庭・地域におけるキャリア教育の推進と役割分担を明確化することにより、地域との協働が進み、体験活動の場が増える。	・ボランティアティーチャー（講師）の数	10	人	12	16